バターロールをつくってみよう

はじめてのパン教室

問：教育委員会 生涯学習課
☎050（3381）5082
FAX0957（85）2767

楽しく、おいしく、初めてでも簡単にできるパンづくりに挑戦しましょう。

と：３月23日㈫　午後１時～４時（３時間程度）
ば：布津公民館
●講師：高木屋　高木　文博　氏
対：市内に在住または勤務する成人者
定：20人（応募者多数の場合は抽選）
〆：３月12日㈮　料：500円程度（材料費として）
●持参品：エプロン、三角巾
申：電話、FAXまたは窓口で申し込みください。

正しい化粧習慣をつくりましょう　女性限定

春のビューティー教室

問：教育委員会 生涯学習課
☎050（3381）5082
FAX0957（85）2767

あなたの魅力をアップさせる基礎知識を学んで、新しい季節をスタートさせましょう。

と：３月24日㈬　午後８時～10時
ば：西有家総合学習センター
●講師：カネボウ化粧品 林田 扶美 氏
新生堂薬品有家店 北島 恵実 氏
対：市内に在住または勤務する成人者
定：20人（応募者多数の場合は抽選）料：無料
〆：３月12日㈮
●持参品：普段お使いのメイク道具
申：電話、FAXまたは窓口で申し込みください。

キャンドルモニュメントコンテスト参加者募集

1,000個のキャンドルを原城跡に灯しませんか？４月10日㈯に開催される原城一揆まつりの「キャンドルモニュメントコンテスト」の参加者を募集します。※キャンドルは実行委員会で準備します。

●参加申込料…2,000円/団体
●賞　　金…1等　50,000円　2等　30,000円　3等　20,000円
●参加賞あり…地元特産品
●申 込 締 切…３月31日㈬
●申 込 方 法…①申込団体名、②代表者氏名、③代表者住所、④電話番号を添え、電話でお申し込みください。
※申し込み期間終了後、参加者に対する説明会を開催します。
▶申　込　先…原城一揆まつり実行委員会事務局
☎0957（85）2160

楽しい情報満載！

できました！南島原ひまわり観光協会のホームページ

南島原ひまわり観光協会　検索
WEB ブラウザ「南島原ひまわり観光協会」で検索 !!

南島原市の情報が満載！
南島原市内外に向けて情報を発信中です。

問 南島原ひまわり観光協会　☎0957(76)1800

http://himawari-kankou.jp/

春風に乗ってピアノできれいな歌をひきたいなぁ
テーマ「春風に乗って」　南島原市立　布津 小学校　3年　名前 有村 さや

僕らのメッセージ

世界に羽ばたく島原半島ジオパーク

島原半島ジオパークを楽しむために

今月のテーマ　③災害の予防　～火山災害を減らすために、どんな取り組みがなされているのか～

たびたびおこる雲仙火山の噴火。島原半島に暮らす私たちの祖先は、火山と共存するために、さまざまな工夫を凝らしてきました。その工夫には、最先端の技術と日本古来の知恵が生かされています。

今月は、「③災害の予防」と題して、その取り組みを紹介します。

火山災害の性質

「火山の噴火＝災害」とは限りません。噴火が小さいと災害も小さいというわけでもありません。生活する場所の近くで火山が噴火をすれば、噴火の大小を問わず、大災害になる危険をはらんでいるのです。

土石流から町を守る！ ～噴火中に考案された世界初の試み～

1991年5月以降、雲仙普賢岳では、火砕流や土石流による災害が相次ぎました。噴火の長期化に伴い、山腹には大量の土砂が堆積し、大規模土石流の発生が心配されるようになりました。しかし、当時は、火砕流が頻繁に発生していることもあって、作業者の安全を確保することは難しく、砂防工事は困難を極めました。

こうした事態を打開するために開発されたのが、ブルドーザーやショベルカーの無人化施工技術でした。重機を無線で操縦するこの技術は、噴火中に開発され、世界で初めて噴火現場の投入に成功。大きな効果をあげました。この技術は、現在、他の地域でも防災・減災に役立てられています。

また、現在、水無川や中尾川流域には、砂防ダムや大きな岩を取り除くためのスリットダムが設置され、万が一の事態に対応する設備が整えられているほか、植物の種まきや植樹を通じて、土砂の流出を防ぐ取り組みが行われています。さらに、土石流から町を守るために行われた「安中三角地帯の嵩（かさ）上げ事業」は、住民と行政が一体となってまちづくりをすすめた、世界的にも類を見ない、火山との共生の好例です。

噴火後の災害対策 ～日本古来のデザインが応用された導流堤～

戦国時代の武将・武田信玄は、武士としての戦術に優れていただけでなく、川の氾濫をコントロールする治水技術にもたけていました。中でも有名なものは、約450年前に信玄が考案した「霞堤（かすみてい）」もしくは「信玄堤（しんげんづつみ）」と呼ばれる、隙間だらけの堤防でした。

これは、川の両岸に短い土手をカタカナの「ハ」の字型に並べたもので、洪水時、堤防の隙間からは増水した水が溢れ出し、堤防の決壊を防ぐとともに、下流域へ流れ込む水量を減らすなど、水害を未然に防ぎました。また、隙間からあふれた水や土砂とともに多くの栄養分が畑に流れ込み、その後の耕作に利用されました。この堤防は、洪水の力を途中で緩めさせながら下流に導くなど、斜面が急で、短い日本の川の特性をうまく利用していたのです。

この霞堤のデザインと機能を採り入れたのが、水無川および安徳地域に建設された「導流堤」です。国内でも珍しい水無川の「導流堤」は、現在、「島原まゆやまロード」や仁田峠第二展望台から、その全容を一望できます。

壮観ともいえる美しい景観。それは戦国時代からの治水技術と最先端の砂防技術が融合したものだったのです。

導流堤で町が守られているのがよくわかる
【国土交通省雲仙復興事務所撮影】

※次回は、「④自然の恵み」を紹介します。お楽しみに。

防災講演会　問 島原半島ジオパーク事務局　☎0957(65)5540

新しい火山防災情報 －噴火警報導入と防災対策への活用をめざして－

日本は世界有数の火山国であり、これまで多くの火山災害に見舞われてきました。火山災害と火山観測の歴史を振り返りながら、火山防災情報の改善に向けた取り組みと地元自治体の防災対策への活用についてわかりやすくお話しします。

●日　時　３月19日㈮　午後７時
●場　所　島原復興アリーナ　サブアリーナ（島原市平成町２番地１）
●入場料　無　料
●講　師　清水　洋氏（九州大学 教授）
宮村 淳一氏（北海道大学 准教授）
●主　催　火山との共生推進協議会
島原半島ジオパーク推進連絡協議会
文部科学省（防災教育支援事業）